



# とらいあんぐる



2020 年 11 ・ 12 月

一音会ミュージックスクール発行

## 「子どもごころ」

「親ごころ」という言葉があります。  
親が子どもを思う気持ちのことです。

それと同様に「子どもごころ」とい  
う言葉があつて良いと思います。

親を思いやる気持ち、です。

私が思う「子どもごころ」は、親孝  
行とはちょっと違います。

本当に文字通りの幼い「子ども」が、  
子どもなりに親に気をつかう心です。

おとなの目から見ると、子どもはわ  
がままいっぱい、いつも自分の欲求

をそのまま素直に口に出しているよう  
に見えるかもしれません。

でもそうではない子、そうではない  
瞬間もたくさんあると思うのです。

すごく欲しいのに、「欲しい」とい  
えなくて「欲しくない」という。

本当はやりたいのに、やりたくなさ  
そうにする。

すごく傷ついているのに、平気な顔  
をする。

1つには、遠慮です。「欲しいけれ  
ど、すごく高いものだったらどうしよ  
う」、「やりたいといったら、ママが

すごく困っちゃうかもしれない」。そんなふうに思ってしまいます。

どんな子だって、親を困らせたくないと思っています。

もう1つには、欲求を丸出しにすることが恥ずかしい、という気持ちがあります。

時に、タガがはずれて、「買って、買って～」と、床にひっくりかえってだだをこねている子がいますが、それができない子が大半です。子どもでも、それが恥ずかしいことだと知っています。

私の子ども時代は、2つ目の気持ちがより大きかったと思います。

私は、小さな頃、おそろしく自意識が高い子どもでしたので、自分の欲求を素直に外に出すことができず、そのことに苦しめられていました。自分の首をしめるようなことばかり、いったりやったりしていました。

よくやっていたのは、「欲しくないふり」でした。

子どもの虚勢ですから、それは多くの場合、見抜かれていて、「この子は素直じゃない」、「へそまがりだ」などと、いわれました。かわいくない子どもだったと思います。

それでも、「欲しい、欲しい」と、せがむのは、私にとってはものすごく恥ずかしいことで、損をしていると分かっているにもかかわらず、損な自分を変えることができませんでした。

例えば、です。昔の薬局は、子どもの一人乗りの遊具がありました。お金を入れると動くのです。



はじめて告白しますが、乗ってみたいなど、ずっと思っていました。

買い物は、いつも祖母と一緒にでした。私が、乗り物にチラチラと視線を送っていたのでしょう。毎回のように、祖母がききます。

「あっちゃん、乗ってみる？」  
それだけで、心臓がバクバクします。私は、できるだけそっけない声でいいます。「いい」。祖母は「そーお？」といいます。

薬局からの帰り道ずっと、私はあれこれ考えています。

「うん」っていっていたら、今頃、乗っていたのかな。

なんで「うん」っていわなかったんだろう・・・。

心の中で、「ひとり反省会」です。夜も、おふとんの中で、「反省会」の第二部です。

ぐじぐじぐじぐじぐじぐじぐじぐじ、悩んでいます。

祖母に、「あっちゃん、乗ってみる？」と水を向けられたことは、一度や二度ではありませんが、一度として、私は遊具に乗ることがありませんでした。

まず、どのくらいの値段なのかは分からないけれど、ちっぽけな私一人の楽しみのために、祖母にお金を使わせることが申し訳なかったのです。

また、子ども用の遊具に乗る、という行為が、自分が子どもであることを意識させられ、イヤだったのです。

「いや、実際、子どもでしょ？」と、今なら思うのですが、当時は自分が小さな子どもであることが私の大きな不満でした。力のない小さな子どもであることが、恥ずかしくてしょうがなかったのです。

乗っているところを、誰か知っている人に見られたらどうしよう・・・というのもありました。見られたってどうということはないのですが、私の肥大した自己意識は、それを許さないのです。

私はもう50歳を過ぎました。あれだけ乗りたかった薬局の乗り物に一度も乗ることなく、生涯を終えることになるのでしょう。

なんという悲劇でしょう！

これは、子ども一般にいえることでもないのかもしれませんが。あくまでも私の昔話です。

実はおとなになってから、夫に薬局の乗り物の話をしたことがありました。

「昔の薬局って、お金を入れて動く乗り物があったよね？」

「あった、あった、オレの親の実家にもあったなー」

夫の母方の実家は薬局です。

「おばあちゃんが、お金を入れなくても動くようにしてくれてさ、オレ、1日中、乗ってたなー。小学校高学年になっても乗ってたさー。最後は、重量オーバーでこわれちゃって。あはははは・・・」

1日中？

小学校高学年？

なんという人だろう！

昔からアホだったんだな～と思う反面、尊敬の念をおぼえました。

なんて強い人なんだろう！

そして、私も変にかっこつけないで、一度くらい乗っておけば良かったと、心から思いました。

損な子どもだったと思います。

きっと、喜んで遊具に乗る幼い日の夫は、かわいらしかったことでしょう。

「ほらまたあの子、あれに乗ってる」、  
「好きなのねー」と周囲のおとなが目を細める光景が目に浮かびます。

自分が、そんなふうにあされる子どもでなかったことは、本当にうらめしいことです。



自分でも気の毒に思うような私の子ども時代ですが、とっておきの思い出もあるのです。

私の母は、私のことをよく理解している人でした。

私が常に「どっちでもいい」と答える子どもであることも知っていました。

そして、私が「欲しくない」という中で、“本当は欲しい時”と“本当に欲しくない時”を、正確に見分ける達人でした。本当に欲しい時、だいたい母は見抜いていて、察して買ってくれる人でした。

「どうして、ママには分かっちゃうんだらう?!」

私の演技力のなさでしょう。

でもそれだけでもないように思います。

思うに、私の母も幼い時、そういう子どもだったのではないかと思います。

あまりにも察しが良すぎたからです。

私が4歳の時のことです。おもちゃ屋さんで、ものすごく目をひく、おさ

さんのぬいぐるみがありました。おもちゃ屋さんの場所も、ウインドウの中でかざってあった場所も、今でもはっきり覚えています。

私は、ひと目で、そのおさるさんに心を奪われてしまいました。他のかわいらしいぬいぐるみとは、あきらかに異質のおさるさんは、澄んだ瞳で、私のことを見ていました。

母は、後にこの時のことをふりかえています。

「とらいあぐる」にも書いていました。こんなふうでした。

**明らかに目がはなせない様子。「欲しいの?」ときくと、「いらない」とあわてて答える。**

**これは欲しいのだなと思って「買ってあげるわ」というと、「いらない」という。「買いましょよ。かわいいもの」と、再三さそっても、石のようにだまっている。**

**いらないというものを買うわけにもいかず、そのまま帰る。**

家に帰ってから「ねえママ、あのおさるさん、かわかったねー」と、何度も、脈絡なくいう。「欲しかったんじゃないの？」ときくと、真っ赤な顔をして「欲しくない」といいはる。

私の記憶と同じです。

ええ、私はものすごく欲しかったのです。

でも、ショーウインドウの一番奥の一番高いところにあるおさるさんは、

きつと高いのだ、と思いました。

闘病中の母、高齢の祖父も闘病中、高齢の祖母、平凡なサラリーマンの父。私の家は、豊かではありませんでした。

幼くとも、そういうことは分かるものなのです。

どうしても「欲しい」の一言がいえませんでした。

翌日、母に頼まれた祖母が、おさるさんを買ってきました。



実は母は、あまりそのおさるさんが好きではなく、本当は買いたくなかったようでした。

「本物のおさるさんみたいで可愛い」と、よくいっていました。

母は「おようふくを着せると少しはかわいらしくなるかもしれない」といって、病気で痛む手で、服を編んでくれました。

←おさるさん(2020年撮影)

おさるさんは、母亡き後も、今日にいたるまでずっと、私のそばにいます。

私の生涯の宝物です。

母の愛情がつまっていると感じます。

案の定というべきか、私の娘のキョウコも、私によく似た子どもでした。

子どものくせに、遠慮ばかりしていました。

いつしか私も、母のように達人になっていました。

すなおじゃない子どもだった私の腕の見せどころです。

欲しそうだなと思ったら、買ってしまします。

レジでお金を払おうとする私のまわりを、キョウコはぐるぐるまわりながら、「キョウちゃんは、いらないんだからね?」「キョウちゃんは、いらないんだからね?」と、繰り返しいいます。

うるさいので一喝です。

「ママが欲しいから買うのっ!」

そして、家に持ち帰ってから、「ママ、いらなくなっちゃった」といって、キョウコに渡すのです。

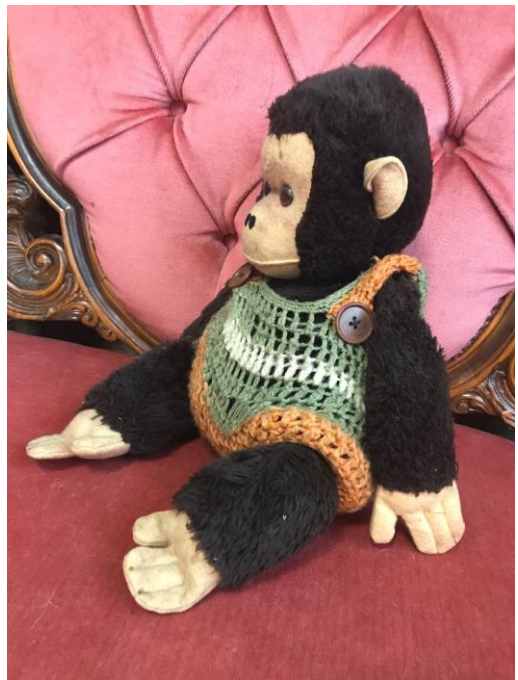
なんて面倒くさいのでしょうか!

でも、むかしむかし、こういう子どもにつきあってくれていた私の母に、あらためて感謝するのです。

クリスマスとお正月が来ます。

子どもへのプレゼントの機会もあるでしょう。

欲求を素直に出せない子がいることを、どうかおとなの皆さん、心にとめておいてください。(江口 彩子)



## ◆「ピアノ・トライ」にお申し込みをありがとうございます

先月号で、今年の「ピアノ・トライ」について、お知らせいたしました。すでに多くの方が、「ピアノ・トライ」のお申し込みを済ませてくださっています。ありがとうございます。

うっかりしてお申し込みを忘れてしまった方も、まだ間に合います。ぜひご検討ください。

例年と違う方式であるため、多くの方にとまどいを感じさせてしまっているかもしれません。ご不明の点は、何でもお気軽におたずねください。担当の先生も、相談に乗りますので、ご不安な点はおっしゃってください。

今年の主な変更点は、以下の点です。

- ・Line で申し込みをする（Line をお使いでない方は、お電話でお申し込みください）。
- ・撮影の様子を動画で撮って提出する。
- ・絵音符の生徒さんは、楽譜を見ながら演奏する。
- ・「ル・コンセール」は、少人数制とし、密を避けておこなう。

### (1) エントリー〆切

**2020年12月2日（水） 24:00**

Line のトーク画面で、お申し込みください。お名前、年齢（学年）、ピアノ担当をお知らせください。

### (2) 動画提出〆切

**2021年1月15日（金） 24:00**

Line のトーク画面で、動画をお送りください。お名前、曲名（作曲者）、楽譜の写真、動画、をお願いします。

※くわしいやり方は、9月号の「とらいあぐる」と同時にお配りしましたプ



リントをご参照ください。

### (3) 参加費

2200円

※参加費は、お月謝引き落とし時(2021年3月1日)に加算させていただきます。

### (4) 課題曲

以下の中から任意の1曲

- ① バッハおよびバロック時代の作品
- ② エチュード
- ③ ポリフォニーの曲
- ④ 「すくすくミュージックスクール」のテキストの中の曲

※絵音符の生徒さん、まだ五線の曲に入ったばかりの生徒さんの曲目は自由です。

## ◆ジュニコン・オーディションについて

例年、3月には、客員教授のプリドノフ先生ご夫妻をお招きし、レッスン、コンサート、オーディション(ジュニコン・オーディション)をおこなっていました。

今年の3月は、新型コロナウイルスのせいで、プリドノフ先生の来日がかかわらず、レッスンとコンサートは中止とし、オーディションはアドバンスAの先生方の審査により、おこないません。

2021年3月も、来日がかかわない可能性がとても高いと思っています。その場合も、今年同様、オーディションはおこないません。プリドノフ先生が来日されなかった場合は、オーディションを撮影し、その映像をプリドノフ先生に送り、審査と講評をいただく形を予定しています。

したがって、2021年のジュニコン・オーディションは、以下の日程で、プリドノフ先生ご夫妻を審査員とする、本来の形でおこないません。

2021年3月14日（日） 午後1時～ 「ひびきホール」

2021年4月時点で、小学校4年生以上、高校3年生以下の生徒さんがエントリーできます。エントリーをお考えの生徒さんは、担当先生とも相談の上、準備に入ってください。

「ジュニア・コンサート」は、2021年4月27日（火）夕方、大泉学園「ゆめりあホール」にて、開催予定です。

### ◆「フォルテの会」を開催します

「フォルテの会」は、声楽、ヴァイオリン、フルート、作曲、「うたくらぶ（合唱）」の発表会です。先月号でも、お知らせをいたしました。が、予定通り、2021年2月7日（日）に開催する予定です。

客席の前半分を空席とし、演奏者の生徒さんの飛沫が客席の最前列に届かないよう、距離をとります。客席は、椅子を相互に離して設置します。参加人数によっては、少人数の部編成とし、入れ替え制とします。

「うたくらぶ」の生徒さんには、フェイスシールド着用のまま、出演いただきます。感染拡大を防止するため、スタッフ一同、鋭意努力いたしますので、ふるってご参加ください。

### ◆在籍生徒さん向けのキャンペーンについて

年があけますと、教室は例年、在会の生徒さん向けにも、対外的にも、広くキャンペーンをおこなってきました。

2021年1～2月は、教室外の方に向けての無料キャンペーンを中止する方針です（1年通じてずっとおこなっている有料の体験レッスンはあります）。無料にしますと、多くの方が教室を訪れ、密を招く危険性があるからです。

在会の生徒さんと、そのごきょうだい、ご家族の方に限っては、例年通りのキャンペーンをおこないます。生徒さんが新年度からのレッスンをお決めになるお手伝いとして、欠かせないものであると考えるからです。

体験したら、そのコースをとらなくてはいけない、ということは、一切ありませんので、お気軽におためしください。

体験レッスンは、3種類です。

お分かりにならないことは、ご遠慮なくおたずねください。ご相談に乗りながら、おすすめの体験レッスンをご案内いたします。

## 1. アドバンスAのピアノレッスン30分体験

アドバンスAの先生のレッスンは、通常期間、体験していただく場合、体験料のご負担が重いですが、キャンペーン期間（2021年1月15日～2月21日）にお申し込みいただいた場合にかぎり、下記の体験料でお受けいただけます。

**30分 2470円（全ての曜日共通）**

「〇〇先生のレッスンを」と、担当先生を指名していただくことができます。

すべての方が対象です。アドバンスAのレッスンをすでに受けていらっしゃる生徒さんも、他の先生のレッスンをおためしいただけます。

「どの先生で受けたら良いか分からない」という場合は、本部にご相談ください。

## 2. リトミックレッスン無料体験

原則として、お一人、1回とさせていただきます。（年齢構成や担当や曜日など、複数回おためしになりたい場合は、ご相談ください。）

すべての方が対象です。

特に、現在、リトミックをお受けになっていらっしゃらない方は、ぜひ体験レッスンをお申し込みください。かつてリトミックをなさっていた方も、今現在の年齢のクラスをおためしになることをおすすめします。

リトミックでは、ピアノのレッスンではじゅうぶんに扱わない表現やリズムのお勉

強をします。リトミックでしか扱わない教材もありますので、原則、すべての方におとりいただくことをおすすめしています。

### 3. レギュラーのピアノレッスン30分無料体験

お一人、1回のみとさせていただきます。

現在、ピアノを受講していない生徒さんが対象です。

現在、リトミックを受講していらして、ピアノをおはじめになることを検討している生徒さんに、ぜひ活用していただきたいと思います。

ピアノをおはじめになる年齢に達していらっしやらない生徒さんで、まだ絶対音感のレッスンをお受けになっていない生徒さん（ベビーリトミッククラスの生徒さん等）は、絶対音感のレッスン（20分）を無料でご体験いただけます。

1と2は、2021年1月15日～2月21日、3は、2021年1月15日～4月18日を、キャンペーン期間とさせていただきます。

### ◆一音会が新聞に掲載されました

10月25日（日）の毎日新聞の記事に、一音会のレッスンが取り上げられました。写真もカラーで大きく掲載され、芦田先生と生徒さんの楽しそうなやり取りが今にもきこえてきそうな写真です。



2020年10月25日「毎日新聞」より抜粋

## ◆ご卒業生の活躍を応援します

10月31日(土)、テレビ朝日系列の「題名のない音楽会」という番組で、日本を代表する若手ピアニストとして、反田恭平さん、藤田真央さん、小林愛実さんの3人が共演しました。

一音会の皆さんなら、よくご存じだと思いますが、このうち反田恭平さんと藤田真央さんは、ともに一音会の卒業生です。番組の中で反田さんが、「実は、子どもの頃、同じ音楽教室にいて・・・」というエピソードを語ってくれました。

卒業生2人による2台ピアノのラフマニノフは、本当に圧巻でした。卒業生の皆さんのご活躍を、心からうれしく思います。



10月31日(土)

「題名のない音楽会」より



## ◆ホームページやフェイスブックをご活用ください

生徒さんやご家族の皆さまにお知らせしたい情報は、基本的には、この「とらいあんぐる」でお知らせしています。

ですが出先で、「あれ？あのイベントはいつだったけ？」、「あの申し込みのメ切はいつだったけ？」と、知りたくなる場面も、あると思います。こうした情報は、教室内のこまごまとした連絡事項も含め、モバイルでいつでもご覧いただけるようにしたいと思っています。

実は、すでにご存じの方もいらっしゃると思いますが、教室はホームページ内に在会生徒さん向けのページを用意しています。これまでは正直、あまり活用できていなかったのですが、これからはこまめに情報をアップしていきますので、ご活用ください。

<https://ichionkai.co.jp/kainimuke.html>



一音会ホームページ  
在会生徒さん向けページ

今号「とらいあんぐる」でお知らせしましたような、ご卒業生のご活躍等、広くお知らせするニュースは、一音会公式フェイスブックに随時、アップしています。普段、フェイスブックをご活用の方は、お時間のある時、ぜひのぞいてみてください。

<https://www.facebook.com/一音会三コ>  
2986827747436/



一音会 公式  
Facebook

## ◆ 1年間、ありがとうございました

はやいもので、あと1か月ほどで2020年が終わります。今年ほど、予想外のことがおこった年は、記憶にありません。何もかもが異例づくしでした。

生徒さん、ご家族の皆さまのご協力を、これほどありがたく思った年も、記憶にありません。たくさんのご協力を、ありがとうございました。

今年は終わろうとしています。コロナ禍はまだ終わりません。新しい年も、皆さまのご理解とご協力をよろしく願いいたします。

冬休み中、一音会本部は12月27日（日）より1月6日（水）まで、お休みをいただきます。勝手ながら、その間は、電話でのご相談もお休みさせていただきますこと、どうかご了承ください。



\*\*\*\*\*

\*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：[1000@ichionkai.co.jp](mailto:1000@ichionkai.co.jp)

電話：03-3954-9999

\*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

\*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。

## 2020年のあゆみ

1月8日	2020年 レッスン開始日	
1月25日・26日, 2月2日・11日・15日・16日	全 6日間	
	ピアノ・トライ	於 バッハはうす
2月2日	第21回「フォルテの会」	於 ひびきホール
2月9日	第64回「ル・コンセール」	於 ひびきホール
2月23日	第65回「ル・コンセール」	於 ひびきホール
3月22日	第14回「ジュニア・コンサート・オーディション」	於 ひびきホール
5月9日	2020年度 レッスンスタート	
6月1日	第14回「ジュニア・コンサート」	於 ひびきホール
8月28日～30日	2020ピアノ発表会	於 清瀬けやきホール
12月26日	2020年 レッスン最終日	

